

平成 26 年度 (2014 年度)

佼成学園中学校入学試験問題

国 語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いたり裏返したりしてはいけません。
2. 解答用紙は 1 枚です。
試験が始まったらすぐに解答用紙に受験番号を記入してください。
氏名は記入してはいけません。
3. 問題は 13 ページまであります。
試験開始後、ページ数がそろっていることを確認してください。
4. ページがぬけていたり印刷が見にくい場合には、手をあげて担当者に知らせてください。
5. 解答はすべて解答用紙の所定の場所に記入してください。

[一]

次の——線部について、漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- ① 敬意をはらう。
- ② 雑誌の巻頭をかざる。
- ③ 車窓からの景色をながめる。
- ④ 百分の一の割合で当たる。
- ⑤ ゴミを取り除く。
- ⑥ ハイユウになりたい。
- ⑦ 私鉄のエンセンに住む。
- ⑧ ヒミツをもらす。
- ⑨ しずくがタれる。
- ⑩ 空が赤くソまる。

[二]

次の問いに答えなさい。

問一

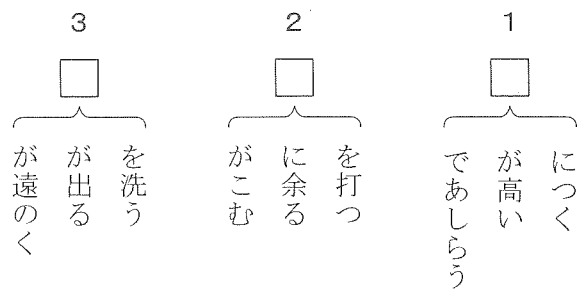
次の1～4の熟語は、二つの漢字の間に意味の上でどのような関係がありますか。後のア～オの中から適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 早朝
- 2 作文
- 3 絵画
- 4 自他

- ア 反対や対になる意味の字を組み合わせたもの。(例…強弱)
- イ 同じような意味の字を組み合わせたもの。(例…岩石)
- ウ 上の字が下の字の意味を説明しているもの。(例…善人)
- エ 下の字から上の字へ返って読むと意味がよくわかるもの。
- オ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの。(例…不足)

問二

次の1～3のそれぞれが意味の通る表現になるように、□に共通して当てはまる体の一部を表す漢字一字を答えなさい。



問三

次の1～3の——線部と同じ種類・用法のものを後のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 台風で今にも屋根が飛びそうだ。
- ア 間もなく電車が到着するそうだ。
- イ 外は雪が降っているので寒そうだ。
- ウ 他人から必要とされない人はかわいそうだ。
- エ 明日は全国的に暖かいそうだ。
- 2 先頭打者にホームランを打たれる。
- ア この場所に来ると昔のことが思い出される。
- イ 先生がお見舞いに来られる。
- ウ 私は何でも食べられる。
- エ 父にテストの結果をほめられる。
- 3 彼はどんなときも泣き言を言わない。
- ア 人の命ははかないものだ。
- イ 時間がないのでタクシーを使った。
- ウ 問題の解き方がわからない。
- エ 休日なので人通りが少ない。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。（句読点や記号も一字にかぞえること。本文の行末にある数字は行数です。）

中学一年生の光司は入学した学校になじめずに休みがちになっていた。心配した父親が、友人で作家の田村章に相談をすると、東日本大震災の被災地取材している田村は、その取材に光司を同行させることを提案した。本文は、父親に連れてこられた光司が初めて田村と会い、東京で行われている『写真救済プロジェクト』を見学している場面である。

冷房設備のない体育館は、大型の扇風機を何台も回していても、むわつとした蒸し暑さが立ちこめていた。

そんな中、約八十名の参加者はいくつもの作業机に分かれて、津波で泥をかぶってしまった写真の洗浄作業をしている。中心は二十代と三十代だったが、親子で参加している人もいるようだった。

「ボランティア募集の翌日に、定員に達したらしい。被災地までは行けなくてもなにか手伝いたいと思ってる人たちは、たくさんいるんだよ」

田村章に言われて、光司は小さくうなずいた。緊張している。中学生のくせにおとなの世界に足を踏み入れてもいいのだろうか、と気後れしてしまっただの。

ところが、田村は「中学生以上なら誰でも申し込めるんだ」と言った。「きみだつてOKなんだぞ」

言われてみると、確かに中学生らしい年格好の女の子も作業をしている。

上でがんばってるらしい」と答え、「すごいだろう？」と笑った。

光司の父親は同じサラリーマンとして感じるものがあるのだろう、「やるなあ」と感心した顔になった。

だが、光司には、正直に言っただけでピンと来ない。

忙しいのに、無理しなくていいじゃん——という気持ちが半分。

それに、瓦礫を片づけたり避難所で炊き出しをしたりするんならともかく、写真なんて後回しでいいんじゃないのかなあ——という気持ちが、残り半分。

「じゃあ、実際にやってみる人に話を聞いてみようか」

田村はそう言っただけで、床に敷いたシートに座り込んで作業をしていたオジサンに近づいていった。

「板橋さん、今日はよろしくお願いします」

顔を上げたのは、プロジェクトリーダーを務める板橋祐一さん（五十二歳）だった。

「津波で泥だらけになった写真がテレビで映し出されたとき、いてもたってもいられなくなっただけです」

それが、板橋さんが『写真救済プロジェクト』を立ち上げたきっかけだった。

汚れた写真は水で洗い流せば元通りになるというものではない。誤った洗い方をすると写真そのものが傷ついてダメになってしまう。テレビに映し出された被災地での写真の扱い方は、板橋さんたち「プロ」の目で見ると、とても危なっかしいものだったのだ。

「正しい洗い方の知識を伝えたいし、それ以前に『汚れた写真も洗えるんですよ』というのを教えてあげたくて、経営陣に話を通し、かわりのありそうなメンバーをリストアップして、声をかけただけです」

「簡単なんですか？」
「コツはあるみたいだけど、特別な知識や技術が要るっていうわけじゃないさそうだな」

泥にまみれたアルバムから写真を一枚ずつ剥がし、乾いた写真ならブラシやハケで泥を落としてから、生乾きのものだったらブラシの工程を省いて、三十度以下のぬるま湯にくぐらせる。ここでは強くこすらずに、大きな汚れをざっと落とすのだという。

次に別の容器に張ったぬるま湯に写真を浸し、四隅から習字の筆や指の腹を使って、そっと、そっと、そっとと撫でるように汚れを落としていく。無理は禁物。爪を立てたり砂でこすったりすると、画像が損傷してしまう。要は、丁寧さ——もつと言うなら、写真に対する優しさが、なによりも求められるのだ。

田村は作業の手順をざっと説明したあと、「富士フィルムのホームページに出てたことの受け売りだけだな」と笑った。

富士フィルムでは『写真救済プロジェクト』という活動を震災直後から続けている。それも、上層部からのトップダウンではなく、そもそもは現場の「写真を一枚でも救いたい」という声に会社が応えたのだという。

「ボランティア？」

光司が訊くと、田村は「みんな通常の仕事をこなしながら、休日返

板橋さんは写真関連部門でプリントなどの材料ビジネスを統括する部長である。通常業務だけでも多忙をきわめている。

それでも手を挙げた。動いた。最初のメンバーは三十人ほど、いまは五十人、皆ふだんの業務をこなしながら週末返上で『写真救済プロジェクト』に取り組んでいる。

「なぜ、そこまで？」と訊いた田村に、板橋さんはシンプルきわまりない言葉を返した。

「だって、写真のメーカーとして、きちんとアフターサービスをしないといけないじゃないですか」

微妙に照れ隠しも交じっているのだろうか、クールに言った板橋さんは、少し離れたところで洗浄作業をしている若手メンバーを指し示して「彼のほうが僕なんかより、ずっとがんばってますよ」と言い、別のスタッフを振り向くと「彼が一番がんばってるかな」と言う。

なるほど……と、光司の父親は感に堪えない様子でうなずいた。ほぼ同世代だけに、板橋さんの姿に上司やリーダーの理想像を見たようだった。

写真は、決して生活必需品ではない。写真が命を救ってくれるわけでもないし、写真によって空腹が満たされるわけでも、寒さをしのげるわけでもない。

「写真を救う前にやるべきことはたくさんあるんじゃないか？」と言う人は少なくないかもしれない。

それでも——。

「初めて入った被災地で、我々はこんな言葉を聞かされたんです」
板橋さんが教えてくれた。

四月九日に気仙沼市を訪ねたプロジェクトのメンバーに、市役所の職員はこう言ったのだ。

「何もかも津波でなくなっていましたでしたが、思い出だけは残っています。でも、その思い出も、記憶だけはいずれ薄れて、なくなってしまう。だからこそ、思い出をこれからも写真という形で残しておきたいんです」

それを聞いて、板橋さんたちは大いに奮い立った。士気があがるのと同時に、写真メーカーとしての使命感もあらためて湧き起こってきた。家や家族を失い、仕事もなくし、今後のことを思って途方に暮れている人たちにとって、一枚の写真が心の支えになることは、きっと、ある。いや、「ある」と信じたい。

(中 略)

「洗った写真は、その後どうするんですか？」

田村の質問に板橋さんが答えようとした、そのとき、スタッフの一人が「三分前です」と耳打ちして、取材は一時中断になった。

もうすぐ午後二時四十六分になる。巨大地震の発生した時刻だ。

あれからちょうど半年——腕時計で時刻を確かめていた板橋さんは、ゆっくりと顔を上げ、会場のみんなに「黙祷をしましょう」と静かに言った。

黙祷の時間は、きっかり一分間だった。

意外と長いんだな、と光司は思った。

震災で亡くなった人たちの死を悲しみ、冥福を祈るための黙祷だと、理屈ではわかつている。だが、光司の親戚や知り合いの中に被災者はいない。震災による死者は一万五千人を超えている。その数字は理解できても、顔も名前も浮かばない人たちの死を、いったいどうやって

悲しめばいいのだろう。

そつと薄目を開けて横を見ると、父親と田村は並んで目をつぶっていた。おとなになると、こういうことが自然とできるようになるのだろうか。

でも、それって、なんか嘘っぽいんだよね……。

心の中でつぶやいたとき、やっと黙祷の時間が終わった。体育館に

いるみんなは、またそれぞれの持ち場に

戻って作業の続きに取りか

り、取材も再開された。

板橋さんが「こちらへどうぞ」と案内したのは、洗浄した写真を一枚ずつ洗濯ばさみで留めたネットの前だった。

写真はアルバムごとに分けて干してある。一目でわかるように洗濯ばさみの色も変えているらしい。持ち主を捜し出す手がかりになるように、写真から読み取れる情報のメモも添えてあった。

「たとえばお誕生日会の写真だと、ケーキにその子の名前が書いてある場合がありますよね。卒業式の写真だと、平成何年度にどの学校を卒業したのか……そういう手がかりがあればあるほど、持ち主が見つかる可能性も広がります」

だが、もちろん、洗浄した写真がすべて持ち主のもとに戻るわけではない。アルバムが泥まみれになっているほどだから、津波に吞み込まれてしまった人も少なくないだろう。

板橋さんの話を聞きながら、光司はネットに掛けられた写真を一枚ずつ見ていった。きれいに洗浄できた写真もあれば、ほとんどがバクテリアにやられて真っ白になり、かろうじて顔の部分だけ救った写真もある。

写真の中の人たちはさまざまだった。家族、同僚、友だち、老人、

問一——線部A・Bの言葉の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A「感に堪えない様子」

ア とても驚いている様子。

イ 深く感動している様子。

ウ 言葉が見つからない様子。

エ あまり感心できない様子。

B「士気があがる」

ア 集団で仕事をするときの苦労を実感すること。

イ 集団に属する人々がそれぞれやる気を取り戻すこと。

ウ 集団で仕事をするときの気持ちが高まること。

エ 集団に属する人々が協力して作業効率をあげること。

問二——線部①「写真の洗浄作業」とありますが、田村は写真の

※1 トップダウン……組織の上層部が意思決定を行い、その実行

を下部に指示する方式。

* 本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

(重松清『希望の地図』幻冬舎より)

会ったこともない相手なのに、心の底から素直にそう思った。そして「写真をきれいにしてあげよう」と板橋さんたちががんばる理由も、ほんの少しだけわかったような気がした。

黙祷の前に写真を見ておけばよかった、と後悔した。そうすれば、心を込めて目をつぶることができたはずなのに……。

(重松清『希望の地図』幻冬舎より)

問三 ——— 線部②「気後れしてしまった」とありますが、このときの光司の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 予想に反してボランティアの参加者が大人ばかりであることにうろたえている。
- イ 親に言われるままに連れて来られたので、消極的になっている。
- ウ 真剣に活動している人々を見て、軽い気持ちで来てしまったことを恥じている。
- エ 中学生の自分には場違いな所に来てしまったのではないかと思い、怖じ気づいている。

問四 ——— 線部③『すごいだろ?』とありますが、この言葉に対する光司の考えとして適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 泥だらけになった写真は元通りにすることができないので、洗浄しても無駄だと考えている。
- イ いくら被災者のためとは言え、自分の生活を犠牲にしてまで働く人々に驚きを感じている。
- ウ 支援の優先順位を考えると写真の洗浄よりも大事なことがあるように思えて、素直に感心できないでいる。
- エ 仕事とボランティアを両立している人々を見て、仕事しかしていない父親のことを恥ずかしく思っている。
- オ 休日に無理して活動する必要があるのだろうかと思問に思っている。

問七 ——— 線部⑥「それって、なんか嘘っぱいんだよね……」とありますが、このときの光司の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 黙祷しなければいけないことは分かるが、何も考えていないのに神妙な顔をして目をつぶる大人に不信感を抱いている。
- イ 黙祷することの意味は理解しているつもりだが、会ったこともない人々の死を悲しむことに違和感を覚えている。
- ウ 黙祷している最中なのに余計なことばかり考えてしまい、祈りに集中できない自分を恥ずかしく思っている。
- エ 黙祷することの必要性が理解できず、一分間の黙祷が長く感じられていらだっている。

問八 ——— 線部⑦「自然と、中学生の写っている写真を見つめる時間が長くなる」とありますが、このときの光司の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア これまで震災のことを他人事のように感じていたが、自分と同じ年頃の人たちの写真を見ることが被災者の存在を身近なものに感じ始めている。
- イ 中学校になじむことができない自分はこうして生きているのに、写真の中の楽しそうな中学生たちは亡くなっているかもしれないことに運命の皮肉を感じている。
- ウ 写真に写っている中学生たちの多くが震災によって亡くなってしまったかもしれないと思い、自分たちの活動の無意味さを痛感している。
- エ 震災で犠牲になった中学生たちのためにも、自分はこれから中学校生活を意義のあるものにしていかなくてはならないと決意している。

問五 ——— 線部④「微妙に照れ隠しも交じっている」とありますが、なぜ板橋さんは「照れ隠し」をしたと考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 思わず大げさな言葉で若手メンバーの活躍を語ったことに気づいて恥ずかしくなったから。
- イ プロジェクトのリーダーとして、自分たちの活動を誇らしげに語り過ぎたことが気まずかったから。
- ウ プロジェクトを起ち上げるまでの苦労など全く感じなかったように語ってしまい、きまりが悪かったから。
- エ まるで当然のことをしたかのように、自分たちの活動を語ったことに気恥ずかしさを感じたから。

問六 ——— 線部⑤「写真は、決して生活必需品ではない」とありますが、被災者にとって「写真」はどのような意味を持つと、板橋さんは考えているのですか。文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

問九 ——— 線部⑧「黙祷の前に写真を見ておけばよかった、と後悔した」とありますが、光司はなぜ後悔したのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 震災で犠牲となった人々の写真を見た今ならば、何事にも真剣に向き合えていない自分の生き方を反省し、気持ちを込めて祈ることができると思ったから。
- イ これだけ多くの写真を洗浄しなければならないような被害の大きさを知った今ならば、被災者たちの無事を心から祈ることができると思ったから。
- ウ 震災以前の人々の幸せな様子が写った写真を見た今ならば、被災した人々の悲しみに共感して、もっと真剣に黙祷を捧げられるはずだと思ったから。
- エ 『写真救済プロジェクト』に関わる人々の姿に接した今ならば、ボランティアの人々の思いも理解したうえで、黙祷を捧げられると思ったから。

みなさんは自分というものを考えるとき、どこからどこまでの範囲を「自分」だと思いますか？ 「こころ」は自分です。頭で考えるのも自分だから、脳も自分のような気がします。でも手や足は自分でしょうか？ 髪の毛は自分ですか？

実はこの「からだ」に対するとらえ方が、自分という存在を考えたとき、大きなポイントになっています。

英国の精神医学者で思想家であるR・D・レインという人は、精神の病気を研究した結果、「からだ」が自分のものと感じられるかどうか、精神の病気にひじょうに関係があると気づきました。

自分の「からだ」に対して、「こんなからだはいらない」「こんなからだは嫌いだ」と敵対視している人は、「からだ」が自分の側ではなく、外部の世界の側に存在している、といったいいでしょう。

こうなったときが危険だと、彼は言っています。

人は基本的には「からだ」と「こころ」に統一感があるのが落ちついた状態です。これを「身体化された自己」といいます。

一方、「からだ」から分離した自己があると（これをレインは「身体化されない自己」といっています）、「からだ」は自分ではなく、他の物と同様に自分の外部にあるものになるので、物と同じように見なすようになります。

たとえば「この大きい顔が大きらい。小顔にとりかえたい」とか

たとえば「身を引く」といったとき、物理的に「からだ」を引いていくだけでなく、「こころ」や精神や立場を引くということも意味します。

「身を入れる」「身にしてみる」「身になってみる」など、いずれも身体を通した精神のあり方を意味しています。

幕末のころ欧米人が来日して、日本人の穏やかさや公共心の高さに驚いた記述が残っていますが、こうした情緒の安定ぶりも、心身合一を伝統としてきた日本の文化とは無関係ではないでしょう。

ところが欧米の考え方が輸入され、「からだ」より精神や理性や思考が重視されるようになると、日本に伝統的にあった心身合一の文化は後退していきます。

また時代が進んで、他人からどう見られるかを意識した「からだ」が求められるようになったため、見栄えのよくない「からだ」は自分にとって許せない存在になってきます。

そのため健康を害してまでやせようしたり、プチ整形に走る人が増えてきました。

一方で自己から「からだ」がまったく失われていく人もいます。私が最近心配しているのは、インターネットやゲームに没頭しすぎる若い人が増えていることです。

対面状況では、身体と身体が向き合い、お互いの「からだ」が反応し合います。

（１）ネットだけをやっていっていると、「からだ」はほとんど必要なくなっていくします。モニター上ではストリートファイトをやったり、バトルをしたりして、バーチャルでは激しく動いていても、実際には「からだ」を使っているわけではありません。

「この太い足はいらない」という具合に。なぜこんなことになるのかというと、ひとつは人から見られる「からだ」を意識しすぎたからです。

他人を意識した「からだ」のことを「対他者身体」といいますが、その典型がモデルです。彼女たちがひどくやせていて、足が細いのは、服を着て見栄えがよくなるために、そのような「からだ」を求められたからです。

モデルさんはプロですから、ある程度しかたないとしても、普通の子がモデルをまねして無理なダイエットを一〇代からするのは危険です。

つねに人からどう見られるかを意識した「からだ」を求めていくと、「からだ」はどんどん自分から離れていき、自分のものではなくなってきました。その最たるものが拒食症です。やせた「からだ」に執着して、生命の危機に瀕しても食べることを拒否すると、自分と「からだ」が離れていってしまいます。

自分から「からだ」が分離してしまうため、精神のほうに肥大化して、精神的な問題が起きてくる。精神医学者のレインはそれを指摘したわけです。

西洋には身体と精神を二つに分ける考え方が多かったのですが、日本人は身体と精神をはっきり分けることはあまりしてきませんでした。

情報のみでかわるわけですから、だんだん自分のリアルな「からだ」の感覚が薄くなり、バランスを欠いていきます。

精神の病気になる人と同じようなことが起きてくるわけです。私がネット社会の行き過ぎを危惧するのも、こうした理由があるからです。

「からだ」と「こころ」の関係について、身体観から考えた人がいます。先に述べたフランスの哲学者メルローポンティという人です。彼は私たちにとつての世界は、「身体として世界に住み込む」という形でつくられていると考えています。

「からだ」が世界に住み込むとは、どういうことでしょうか。

西洋の伝統では意識や精神を重んじます。これを推し進めると、自分で自分を意識することができると考えます。デカルトのいう「我思うゆえに我あり」がその典型です。

デカルトは、すべてを疑うことから始めました。するとすべてが疑わしい。しかし、今こうして疑っている自分は確かに存在する。したがって、考える意識があるからこそ、自分は存在している、という考え方です。

でもいくら「自分が存在する」と思っても、実際には思うだけでは存在できません。意識さえあれば存在できるのかといえば、そんなことはなくて、身体つまり「からだ」がなければ存在することはできません。

「からだ」があるからこそ「ここに存在する」のだし、「からだ」があるから世界が見えてくる、というのがメルローポンティの考え方です。

彼は「われわれの身体が空間のなかにあるとか、時間のなかにある

とかと、表現してはならない。われわれの身体は、空間や時間に住み込むのである。」(『知覚の現象学1』みすず書房)と言っています。

(2) ボールが飛んできたします。私たちは、瞬間的に手を動かしてキャッチします。「この角度でこうやって手を出そう」などと計算するのではなく、瞬間的に手が出ます。

これはふだんからキャッチボールをすることで、ボールが来たら手を出して受け取るというパターンを「からだ」が獲得しているからです。それが、身体が空間や時間に住み込む感覚です。

その証拠に一度身につけた技は何年たっても変わりません。私は先日、久しぶりに大学のテニスクラブの友人たちとテニスをする機会がありました。

みんな二〇年以上たっているというのに、全員当時と打ち方が同じでした。「全然変わらないね」とみんな笑ったのですが、それはテニスのフォームが「からだ」の習慣として獲得されているからです。

同窓会に行くと、みんなしゃべり方がぜんぜん変わっていなかったり、笑い方が同じで懐かしいのですが、それも「からだ」の習慣です。

(3) 身体パターンが積み重なっていて、潜在的に埋め込まれてしまっているのが私たちの「からだ」です。

そういうものがむしろ自分なのではないか、と考えると、私たちは理性や意識としてではなく、身体としてこの世界に存在しているところからえたい方がいいでしょう。

つまり、自分というのは「からだ」に埋め込まれた習慣の堆積です。習慣のかたまりこそが「からだ」であり、その「からだ」を通して世界と関わっているのです。

そしてその獲得した身体パターンを組み換えたり、更新したりして、

115

問三 ——— 線部②「『からだ』から分離した自己がある」とありますが、このようなことが起こる理由を筆者はどのように述べていますか。四十行目までの文中から二十五字以内でぬき出して答えなさい。

線部③「精神のほうが大化して、精神的な問題が起きる」とありますが、この例として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア やせようと食事を減らしているうちに健康を害するほどになり、必要最低限のものも食べられなくなる。

イ どれだけ整形手術をしても自分の容姿に満足できず、さらに整形手術を繰り返すようになる。

ウ 健康診断で運動不足を指摘されたにもかかわらず、いつこうに運動する気持ちはなれない。

エ ストレス発散のために食べ過ぎが重なり、しまいにはどれほど多く食べても満足感を得られなくなる。

95

私たちは世界を広げていきます。

だから反復練習して、身体を習慣化することはとても大事です。部活はそういうことを練習する行為ですから、ちゃんとやったほうがいいと思います。

そうやって「からだ」に埋め込まれた習慣がたくさんあればあるほど、堆積は大きくなっていくので、「自分」という存在も大きくなっていきます。

(齋藤孝『からだ上手 ころ上手』筑摩書房より)

* 本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

※1 バーチャル……現実の世界であるかのような仮想空間。

※2 危惧する……心配すること。

※3 デカルト……フランスの哲学者。

問一 (1) (3) に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ しかし

ウ または エ つまり

110

問二 ——— 線部①「『からだ』と『ころ』に統一感があるのが落ちついた状態です」とありますが、これはどういうことですか。「(こと)」に続く形で、これより前の文中から二十字以内でぬき出して答えなさい。

115

問五 ——— 線部④「私が最近心配しているのは、インターネットやゲームに没頭しすぎる若い人が増えていることです」とありますが、筆者はなぜ心配しているのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 現実的な「からだ」の感覚が乏しくなり、精神と身体をつり合いが取れなくなるから。

イ インターネットやゲームに没頭しすぎて、現実世界でのコミュニケーションが希薄になるから。

ウ 実際にはほとんど「からだ」を使わないので、精神的な疲労ばかりがたまってしまうから。

エ インターネットの急速な普及により、現実世界とネット社会の区別があいまいになってしまっているから。

問六 ——— 線部⑤「身体が空間や時間に住み込む感覚」とありますが、この例として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一度自転車に乗れるようになると、久しぶりに自転車に乗っても転ばずに乗れる。

イ 子どものころに泳ぎ方を覚えた人は、大人になっても泳げる。

ウ 習いたての英語を使って、海外旅行中に外国人と会話をしてみること。

エ ふるさとで幼なじみに会々と、自然と地元の方言で話してしまうこと。

120

問七 〜〜線部『からだ』に対するとらえ方が、自分という存在を考えるとき、大きなポイントになっています」とありますが、筆者は「自分」とはどのようなものであると考えていますか。七十一行目以降の文中から一文でぬき出し、初めの五字を答えなさい。

問八 本文の内容として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 部活動において基礎的な練習を繰り返し行うことは、身体に基本動作を覚え込ませて無意識に反応できる身体を作ることになるので大切である。

イ デカルトはすべてのことを疑い、疑うことができない事実として「疑っている自分」を見出し、「自分」というものが確かに存在すると考えた。

ウ 精神と身体を一つのものとしてとらえる日本の伝統的な文化は、精神と身体を二つに分ける欧米の考え方に影響を受け、その後しだいに後退していった。

エ 身体も精神も「自分」の中に等しく存在するものであるが、身体の本質は精神にあることを考えると、精神のほうがより重要な存在であるといえる。

(問題は以上です。)

国語 解答用紙

[一]

①	敬意
---	----

②	巻頭
---	----

③	車窓
---	----

④	割合
---	----

⑤	除く
---	----

⑥	ハイユウ
---	------

⑦	エンセン
---	------

⑧	ヒミツ
---	-----

⑨	れる 夕
---	---------

⑩	ソ まる
---	---------

[二]

問一	1
問二	1
問三	1
問四	2
問五	3
問六	4

問一	1
問二	1
問三	1
問四	2
問五	3

問一	1
問二	1
問三	1
問四	2
問五	3

[三]

問一	A
問二	B

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	
問七	
問八	
問九	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

[四]

問一	1
問二	2
問三	3

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	
問七	
問八	
問九	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	
問七	
問八	
問九	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

合計

受験番号
